

第37回 東京国際映画祭
Nippon Cinema Now 部門
正式出品

- ◆一般社団法人日本臨床心理士会推薦
- ◆公益社団法人全国精神保健福祉会連合会推薦
- ◆公益社団法人日本公認心理師協会推薦
- ◆公益社団法人日本精神保健福祉士協会推薦
- ◆公益社団法人日本社会福祉士会後援

無料
申込不要

みんなもろい
街も、家族も、
わたしの心も

THE HARBOR LIGHTS

港に 灯が ともる

プロデューサー
との
アフタートーク
あり

震災を知らない
わたしの物語

開場 9:30-

2026年1月7日(水) 10:00-13:00

龍谷大学 成就館 4階 Main Theater

主催：京都市南部障害者地域自立支援協議会
共催：伏見区地域福祉推進委員
後援：龍谷大学短期大学部 社会福祉学科

kyoto
こころつながる
プロジェクト

港に灯がともる



ストーリー

1995年の震災で多くの家屋が焼失し、一面焼け野原となった神戸・長田。かつてそこに暮らしていた在日コリアン家族の下に生まれた灯(富田望生)。在日の自覚は薄く、被災の記憶もない灯は、父(甲本雅裕)や母(麻生祐未)からこぼれる家族の歴史や震災当時の話が遠いものを感じられ、どこか孤独と苛立ちを募らせている。一方、父は家族との衝突が絶えず、家にはいつも冷たい空気が流れていた。ある日、親戚の集まりで起きた口論によって、気持ちが昂り「全部しんどい」と吐き出す灯。そして、姉・美悠(伊藤万理華)が持ち出した日本への帰化をめぐり、家族はさらに傾いていく……。なぜこの家族のもとに生まれてきたのか。家族とわたし、国籍とわたし。わたしはいったいどうしたいのだろう――。



圧倒的な取材量を基に、 アフター震災世代をリアルに描く オリジナルストーリー

本作は2021年に公開した「心の傷を癒すということ 劇場版」を契機に、表情豊かな港町・神戸から世界へ響く映像作品を描けよう立ち上げられた「ミナトスタジオ」の始出作品。主人公・灯の苦しみや葛藤、成長を見事に演じ切ったのは今作が初の映画主演作となる富田望生。監督は、20年以上にわたり、NHKの演出家として「カムカムエヴリバディ」など数々のドラマを手掛けてきた安達もじり。神戸で暮らす人びとへの膨大かつ繊密な取材を基に、震災後をリアルに描くオリジナルストーリーを作り上げた。

富田望生

伊藤万理華 青木柚 山之内すず 中川わさ美 MC NAM 田村健太郎

土村芳 渡辺真起子 山中崇 麻生祐未 甲本雅裕

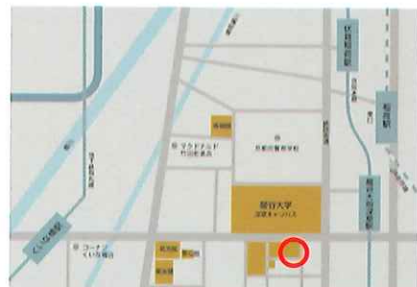
監督・脚本 安達もじり 脚本 川島天見 音楽 世武裕子

エグゼクティブプロデューサー：大島正 プロデューサー：城谷厚司 劇中内礼二部 安成洋 取材：京田光広 写真：平野愛
特別協力：全国映画センター 助成：●文化庁 文化庁文化芸術振興費補助金（日本映画制作支援事業）「独立行政法人日本芸術文化振興会
製作：ミナトスタジオ 配給：太秦 田Minato Studio 2025 2025年 119号 DCP 日本（C）



劇場情報は公式ウェブサイトをご覧ください。
minatomo117.jp

公式Instagram・Xアカウント：@minatomo117



公共交通機関・コインパーキングをご利用ください

- 開 場 9:30- ロビーにて「Kyotoこころつながるプロジェクト」作品展示
- 第一部 10:00- 映画「港に灯がともる」上映会
- 第二部 12:15- アフタートーク 安成洋さんとの交流

安成洋氏：

1964年生まれ。合同会社「ミナトスタジオ」の代表社員で本作のプロデューサー。阪神大震災で被災者の心のケアに当たった故・安克昌（あんかつまさ）医師の思いを受け継ぎ、2023年、「阪神・淡路大震災の記憶を繋ぐ映画の製作と普及」のため、神戸を拠点とするミナトスタジオを立ち上げた。

2025年度 障がい児者の地域生活を考える伏見区民のつどい

問い合わせ先：京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」

電話：075-604-6159

E-mail：nanbu202103@gmail.com



note はじめました
京都市南部障害者地域自立支援協議会